

「地元の子どもと転入生が一緒に行う伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立秋徳小中学校

2 学年・人数

小学生4人（1年1人， 4年1人， 6年2人）

中学生4人（1年1人， 2年2人， 3年1人） 計8人（転入生6人含む）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

- ① 6・9・10月の月・水・木・金曜日に，朝の会の中で，島唄を唄っている。
- ② 10月に3回，学習発表会に向け，小中学校合同音楽の時間に練習している。
- ③ 地域での発表の前に，1～2回，子ども会として秋徳公民館に集まり，披露する3曲を話し合い，選曲の理由，歌詞の大意を含めて発表に向けた練習を行う。
- ④ 旧暦の地域行事に合わせ各集落の公民館前土俵周りで八月踊りに参加している。
- ⑤ 学校では，朝のボランティア活動と昼の清掃時間帯に島唄CDを聞いている。

（2）発表の日時・場所

平成27年4月19日（日）加計呂麻バザー（瀬相港特設会場）

4月26日（日）PTA歓迎会（秋徳公民館）

9月13日（日）秋季大運動会（秋徳小中学校校庭）

9月17日（木）アラセツ【旧暦行事】（秋徳公民館，野見山公民館）

9月23日（水）シバサシ【旧暦行事】（秋徳公民館，野見山公民館）

9月20日（日）秋徳豊年祭・敬老会（秋徳公民館）

9月27日（日）野見山豊年祭・敬老会（野見山公民館）

9月27日（日）佐知克豊年祭・敬老会（佐知克公民館）

11月 1日（日）学習発表会（秋徳小中学校体育館）

11月13日（金）福祉体験活動（特別養護老人ホーム加計呂麻園）

平成28年3月 PTA送別会（秋徳公民館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

島唄（しまうた）・三味線（しゃみせん）・八月踊り（はちがつおどり）

（2）由来

旧暦8月15日に，各家々が収穫した米や海の幸・山の幸を寄合所（公民館）に持ち寄り，今年の豊作を感謝して唄や踊りを楽しんだのが豊年祭。一年中働いている島民にとって年に一度の楽しい日であり，ご馳走が並ぶ日だったという。最近では73歳以上の方の長寿を祝う敬老会を兼ね，土日に行われている。青年団の相撲，

婦人会の踊り，そして子ども会の島唄・三味線が，高齢者を喜ばせている。豊年祭の最後は，参加者全員が土俵周りで踊る八月踊りで締めくくられる。

(3) 構成等

① 島唄

唄う人と三味線を弾きながら合いの手を入れる人に分かれて唄う。チヂンという打楽器が入ることもある。本校では，この地域に長くいる子どもが三味線を，転入生が唄を，島口で唄うことが難しい子どもは，チヂンを担当している。

② 八月踊り

八月踊りは，高齢者の唄と青年団が打ち鳴らすチヂンに合わせ，輪になって踊る踊りである。元来は男女が即興で歌詞を作って唄う掛け合いであったが，現在は，よく唄われる歌詞さえも，唄える方が激減している。

5 保存会や地域との連携の具体

本校には，地元の子どもよりも，教員やUターン者の子どもの数が多いため，上級生が下級生に教えるという形が取りにくい。また，学校の郷土教育活動として伝承活動に取り組もうとしても，地元の教員が少ない中での指導は非常に難しい。そこで，保護者や地元の高齢者に，歌詞の意味をかみ砕いて教えていただいたり，一節ずつ何度も唄っていただいたりして，指導を受けている。

学校行事として発表する機会は運動会と学習発表会の2回であるが，祭り事や地域行事，PTA歓迎・送別会に招待され，島唄を披露する場が多い。高齢者が手拍子をしたり，一緒に口ずさんだり，涙ぐんだりする姿を見るうちに「いつも我が子のように接してくださる地域の方に，最も喜んでいただけるのは島唄なのだ」という気持ちが，子どもたちの心に根付いていくようである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

(1) 練習環境の設定

幼い頃から島唄に慣れ親しんでいるわけではない子どもたちには，島唄への耳慣れが必要である。そこで学校では，2年前から朝のボランティア活動と昼の清掃時間に島唄CDを流している。また，朝の会で1曲の島唄を1か月間唄って，自然と口ずさめるようになることを目指している。

(2) 楽器の確保

教材備品として学校にある三味線だけでは，全員で練習するには足りなかった。昨年，子ども会長が申し込んだニッセイ財団の事業に当たり，三味線が4棹とチヂン2つをいただいた。集落公民館で披露するときのために，マイクとマイクスタンドも4組いただき，高齢者の耳にもより鮮明に子どもたちの歌声が届くようになった。

(3) 全員での発表

地元の子どもたちだけで参加していた地域行事に、児童生徒全員で参加できるように働きかけた。披露する曲の歌詞カードを学校で作し、当日にしていた練習を事前にするようにしてもらった。全員で参加するようになってから、日々の練習が、次回披露することを意識した練習に変わりより熱心に島唄を覚えるようになった。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



地域行事（加計呂麻バザー）での島唄披露



P T A 歓迎会での島唄披露



秋季大運動会での八月踊り



学習発表会で学校職員と共に島唄披露

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童・生徒】

- ・ 知らない唄だし好きにもなれないけれど、唄うとみんなが笑顔になるので、こんなに喜んでもらえるのならちゃんと唄えるようになりたいな。
- ・ 方言の意味も三味線の弾き方も分からないから嫌だったけれど、最近は「唄う＝喜ばれる」という文字が頭に浮かぶので、大きく口を開けて唄うようにしている。
- ・ 小さい頃は、三味線は兄ちゃんや姉ちゃん(先輩)がやるものだと思っていたので、弾ける人が卒業した今年、自分だけが弾かされることに反抗して練習しない時期もあった。地域の方からお礼を言われたり、祖母が「ディケアの友達から、“孫が上手くなって驚いた”って褒められたよ」と嬉しそうに言っていたりしたので、また頑張っている。こうやって受け継がれていくんだなあと思ったし、自分たちの代で止めてしまっはいけないと思っている。
- ・ 八月踊りのチヂンの音が聞こえてくると、なんだかムズムズしてくる。今は真似して踊るだけだけど、大好きな「千鳥浜」は歌詞を覚えて、唄いながら踊ってみたい。

【保護者】

- ・ まったく聞き取れなかった島唄を，年々唄えるようになっていく我が子の姿がうれしい。最近では，三味線も弾けるようになってきたので毎回楽しみだ。
- ・ 上手な人の唄を真似してもっと節回しをしっかりと唄えるようになってもらいたい。

【教職員】

- ・ 教員が島唄に参加するときは，子ども会の活動で，既に子どもたちが唄えるようになっている。唄の意味を教わるときから参加できたらもっといいのになあと思う。
- ・ 島唄は歌詞も難しいが，拍も取りにくい。そんな耳慣れない唄を，まったく弾けない三味線をもって練習し，どんどんできるようになっていく子どもの姿に感動する。